

# 働く女性のがん予防に光を

## がん社会 を診る

中川 恵一

と子宮頸(けい)がんを啓発する対談の動画を撮影しました。

小巻社長は乳がんの経験者で、若い女性に増えている子宮頸がんの予防啓発をめざすプロジェクト「ハロースマイル」を2010年に立ち上げました。キティちゃんには珍しい横顔のデザインがシンボルで、「見つめる先には、幸せな未来がある」がコンセプト。女性たちに自分の体と健康を見つめなおしてほしいと

いうメッセージを伝えていました。

私もがん経験者の1人(ほろこがん)ですが、日本人男性のおよそ3人に2人ががんに罹患(りかん)します。一方、女性では2人に1人で、がんは男性に多い病気で。

ただ、50代半ばまでは女性の方が患者数で上回り、30代と40代は女性患者が男性の2倍にもなります。会社員のがん患者に女性が多い理由です。

低迷しており、残念です。対談では小巻社長と、乳がんと子宮頸がんの早期発見の重要性や、HPVワクチンへの理解の促進などについて話し合いました。私が議長を務める、厚生労働省委託事業「がん対策推進企業アクション」でも、女性がんの対策に特化した「ワーキングリボン」プロジェクトを、小巻社長とも連携して進めています。

子宮頸がんは乳がんは、早期発見によって高い治癒率が期待できる病気です。ただ、企業アクションの調査でもこの2つのがんの検診受診率の低さが目立ちます。

ねこ好きの私は、サンリオの人気キャラクター「キティちゃん」も大好きです。日本のポップカルチャーを代表する「カワイイ」の象徴で、とくに口がないところに深いメッセージを感じます。

11月1日はキティちゃんの誕生日で、今年は50周年でした。この記念日にサンリオエントナーテイメントの小巻亜矢社長と、フコク生命の「フレンドリーフォレスト」というサンリオキャラクターに出会える待合スペースで、乳がん



イラスト 中村 久美

とりわけ子宮頸がんは性交渉に伴うヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因のほぼ100%で、セックスデビューの若年化などで20代や30代にも急増しています。HPVに対するワクチンが13年から法定化され、小6〜高1の女子は無料で接種できます。しかし「副反応」をめぐる騒動などで接種率はなお

男性が55歳まででがんになる確率は5%もありません。男性中心で定年が55歳だった昔の日本の会社では、がんは他人事だったわけです。一方で、女性が65歳まででがんになる確率は17%に上ります。働く女性が輝くために、会社での「女性がん対策」が欠かせません。

(東京大学特任教授)